

【物流フォーラム第2分科会】

1. テーマ：物流DX

2. 演題：物流DX実行の第一歩とその先の戦略的展望

3. 講師：株式会社日通総合研究所

AI/DX 戦略コンサルタント 宮里 隆司 氏

4. 講演要旨：

講師は「DX」を大きく二つに分類し、日本企業が取り組んでいるDXはほとんどの場合「カイゼンDX」とする。カイゼンDXとは対象がオペレーションであり、具体的には、既存業務の効率化・自動化などの取り組みである。これに対して「戦略的DX」とは市場の大きな波と技術の大きな波が生み出すギャップの解消を目指した取り組みのことを指す。

カイゼンDXが活用できるのは、①スモールスタートとしてひとまず取り組みやすいところから始めたい場合と、②業務の効率化などのように外部環境の大きな変化への適応が必要とされない場面の2つである。これに対して、戦略的DXが必要となるのは、市場と技術という外部環境の大きな変化に適応しなければならない場面であり、このような場面では従来の業務プロセスを効率化するだけでは生き残ることができない。

そこで、本セミナーでは取り組みやすいカイゼンDXに関する事例をご紹介すると同時に、戦略的DXで実現される未来の物流の姿を具体的なイメージで描き出すことにより、一社でも多くの日本企業がカイゼンDXの罫から抜け出し、戦略的DXの方向に舵を切るためのヒントをお示ししたい。

そして、具体的な施策への落とし込みに取り掛かる段階にシフトするには、「デザイン思考」の基本知識が不可欠と講師は指摘する。「デザイン思考」はアップル、グーグル、IBM、SAPといった世界的な企業がこぞって採用して成果を上げているだけでなく、日本でも経済産業省やIT総合戦略室がデジタル化を推進するカギとして重視している「考え方・技法」。この「デザイン思考」について最後に紹介する。

5. 講師プロフィール：

1980年 日揮株式会社入社

法務部に配属、国内外の各種契約の作成・検討業務やプロジェクトリーガルとしてプラント建設プロジェクトに従事。

2002年 株式会社ユーキャン入社

各種国家試験講座に関して教務統括講師として講師陣の採用・育成・管理や新規講座開発などを担当。その後、研究開発部門に移り最新の教育テクノロジーや脳機能研究に従事。

2012年 株式会社エビングハウス・テクノロジーを起業

脳機能研究の成果をソフトウェア化する事業及びIT分野における企業研修・コンサルティング事業のためスタートアップ企業を起業し代表取締役役に就任。

2016年 株式会社日通総合研究所入社

BDU (Business Development Unit) においてコンテンツマーケティング戦略の策定及び実装業務を担当。2019年に「物流AI化コンサルティング」部門が立ち上がると物流AI化の戦略分野を専門とするコンサルティングに従事。

2021年11月 [予定] (株) 秀和システムからDX分野の専門書が出版されることになっており、現在執筆中。